

巴年にちなんだ展示



永田米蔵一階には、金森宗和に見いだされたという「飛驒春慶」、江戸時代末に、松田亮長など名工を生み出した「一位一刀彫」、飛驒郡代豊田藤之進によって始められたという「洪草焼」などの工芸品が展示されています。

工芸品は時の為政者や町人たちの支援によって地場産業として発展をとげてきました。

そこには、山々と共に暮らす飛驒人の自然に対する知識や高度な加工技術と、江戸や京都の文化との融合があり、現代でも高く評価される作品を残しています。

展示室では、過去の名工の作品とともに、現代作家の作品も展示しています。

問合せ

飛驒高山まちの博物館
032-12055

第十二章 人の魅力、まちの魅力、高山の魅力 伝統工芸

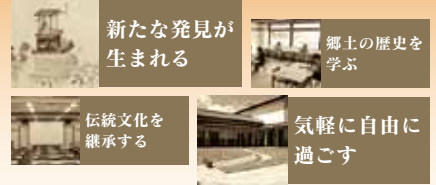
飛驒高山の風土と文化が生み出した工芸の美

作品はどれもすばらしいものですが、本来はガラス越しに見るものではありません。

私たちは日々の暮らしの中で器やインテリアなどとして、その美しさに接してきました。近年その機会は減っていきません。しかし、工芸品は使われなくなり、技術も作品も残ってはいきません。まず、皆さんが気軽に使ってみる機会を持つてはいかがでしょうかでしょう。



親子亀 (松田亮長作)



まち博へよう

飛驒高山 まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛驒高山まちの博物館」
その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちとの、刻を超えた出会いが待っています。
広報たかやまでは、収蔵品とそれにまつわるエピソードを紹介していきます。

利用のご案内

- ◆開館時間 展示室 午前9時～午後7時
研修室 午前9時～午後9時
庭園 午前7時～午後9時
無休 (臨時休館 6月19日)
- ◆休館日 無料
- ◆観覧料 無料
- ◆駐車場 空町駐車場 (市民の方は2時間無料です ※証明書要)

〒506-0844
高山市上一之町75
☎32-1205 FAX35-1970
(まちなみバス「まちの博物館前」下車すぐ)



一石四鳥
高山市長 國島芳明

市内の建築業者が市内産木材を使って市外で住宅を建てる場合、市では建築業者が建築主に対し贈呈する飛驒高山の家具などの経費の一部を助成しており、その記念すべき第1号認定を本紙6ページで紹介しました。

市は平成21年から、市内産木材の需要拡大と地場産業の活性化を目的に、市内の建築業者が市内産木材を使って家を建てられた市民のみなさんに対し、木材の使用量に応じて上限50万円の助成を行う事業を開始しました。

今年度からは「地産外消」にも拡大し、第1号となった方にナラ材を使って市内で製作されたテレビボードが贈呈された次第です。

本事業により、住宅建築や家具などに地元産木材がどんどん使われ、伐採や植樹といった森づくりが進みます。また、飛驒の匠で知られる大工や木工職人などの技は、業(なりわい)としての競争力を高めていただけるとともに、外貨を獲得されたことによる地域経済への波及効果も期待できます(さらに申し上げますれば市の助成も市外に流れません)。

私のマニフェストに掲げる「高山の良さを再認識し、それを外に向けて発信し、更に新たな良さを創造する」ために、あらゆる施策に知恵を絞る、汗を流し、今後ともたゆまず進んでいく所存です。

ケーブルテレビの番組「ハイ、市長です」はインターネットでもご覧いただけます。http://www.city.takayama.lg.jp/net-tv/index.html



印刷/飛驒印刷株式会社

古紙/UV配合率100%再生紙を使用

2012.12.1